

2023年9月16日

## 自然を語る会

参加者 15名

飯田橋ボランティアセンター＋zoom

暑い夏でした。地球沸騰と言われるような気候危機、ウクライナの戦争、原発の汚染水の海洋放出などいろいろな問題が山積する夏でもありました。

今回の「自然を語る会」では、特にテーマを決めず、参加された皆さんがどのような夏を過ごされたか、どんなことに問題意識を持たれたかなどを話し合いました。

気候危機：函館に行かれたNさんは、北海道でも連日30℃を超す暑さだったことを報告されました。冷房など全く必要とされない土地だったのに、今年の暑さで団扇片手に皆さんうだっていたそうです。そしてなんと、イカは全く獲れず。「本日はイカは獲れませんでした」という張り紙が店にはられている状態だったそうです。他にも、暑さで外に出ることもできなかったという報告が多くありました。

汚染水の海洋放出：多くの会員さんが海洋放出への疑問を述べられました。レイチェル・カーソンが60年も前に、核のゴミの海への放出の危険性を述べていますが、その先見の明に驚かされました。『核のゴミをどうするか』（岩波ジュニア新書）の紹介もありました。

海洋プラスチックゴミ：現在年間4億トンのプラスチックが生産され、その大半がすぐに捨てられる包装材プラスチックだそうです。1人50キログラムとすると、1トンは大人20人の重さです。4億トンとは人間80億人分の重さ・・・つまり地球上の人間すべての人の重さになります。そしてその大半が毎年捨てられているのです。これは何とかしなくては、今に地球はプラスチックゴミに覆われてしまうでしょう。

このように難しい問題が山積みだというのに、世界のどこかでは戦争が人間を殺し、自然を大規模に破壊しています。戦争なんかしている場合か！というのが参加者皆さんの感想でしたが、どうしたらいいか・・・

ほんとうに微々たることですが・・・と、コンポストを始められたという話もありました。微々たることを、それでも一つ一つして行かなくてはならないでしょうか。

また、若者達に期待する、という意見もありました。環境問題に積極的に関わっていかうとしている若者も増えてきています。私達も子ども達に自然の美しさ、素晴らしさを伝える活動をもっと積極的にやっていかなければならないと感じました。

(小川記)